

オンラインでのおはなし会が大好評を博す

勉強会を重ねて自信をつけた面々は、21年5月にはオンラインでのおはなし会を初めて開催。チラシやSNSを見て事前予約していただいたご家庭の子どもたちを対象に、メンバー各自の自宅からZoomで絵本の読み聞かせを行いました。これが好評だったことで8月にも行うことになり、課外活動の活動制限が緩和された11月には、等々力祭の開催中にキャンパスから2度ほどライブ配信もできました。

もちろんオンライン配信ならではの苦勞もあります。たとえば著作権のある絵本は出版社に使用許可を得なければならず、交渉では顧問の原田留美先生にずいぶん助けていただいたようです。そこでメンバーたちは、そうしたわずらわしさのないオリジナル絵本作りにも着手。1年生から3年生まで各学年で1冊ずつ作成し、これらがおはなし会では子どもたちに大人気だった模様。原田先生も授業で使いたいくらいのクオリティと太鼓判を押してくれたそうです。

なお参加する子どもたちは毎回10組ほど。「うまく進行する



等々力祭で行った「オンラインお話し会」の様。オンラインで行う場合、読み聞かせをする人、手遊びをする人、司会をする人と、毎回担当を決めて臨みます。

には、これぐらいが限度。あまり多いと画面に映る子どもたちの顔が小さくなってしまいますから。絵本の世界に引き込むためには、表情やリアクションをしっかり観察する必要があります」と語るのは副代表を務めた岩佐未緒さん。ちなみに彼らはいろんな“手遊び”のレパートリーを持ち、読み聞かせの前や合間に披露して、瞬時に子どもたちの心をつかむことができます。「児童学科では授業でも読み聞かせや手遊びを習いますが、そのスキルを上げるためにぼっけに入ってくる人も多いんですよ」(岩佐さん)。

コロナ禍でも前を向く姿勢が多くの新会員を呼んだ

今回集まった4人のメンバーも、保育園や幼稚園で実習を行う前に、ぼっけで読み聞かせなどの経験を積んでおきたいと考えて入会。また2年生の峯島彩恵さんと大熊望恵さんは、コロナ禍でありながらもできる活動が続けていこうとする先輩たちの姿勢も大きな魅力に感じたと言います。「せっかく入学したのに、コロナでいろいろ我慢しなくちゃならないのは残念だなと思っていたんです。そんなときにSNSでぼっけが積極的に情報発信しているのを見つけて……。とても頼もしく感じて入会を決めました」(峯島さん)。「私もそうです。長くメンバー同士が対面できない状態が続きましたが、オンラインでも先輩たちからいろんなことを学びました。等々力祭の配信では司会の大役も任せていただき、とても自信がつけました」(大熊さん)。

21年度のぼっけには3年生が9人、2年生が9人、1年生が14人所属。コロナ禍にあって2年生と1年生がこんなに入ってくれたのはとても嬉しいと、会を牽引してきた稲山さんと岩佐さんは口を揃えます。最後にその二人に後輩たちへのエールをお願いしました、「まだまだ油断できない状態が続くかもしれませんが、メンバーみんなが楽しいと感じられるような活動

を続けてもらいたいです」(稲山さん)。「同感。私たちの代のコピーをしなくていいから、どんどん新しいことにチャレンジしてください」(岩佐さん)。

そんな先輩たちの言葉に大きく頷いていた2年生の二人。人間科学部の移転に伴い、歴史あるぼっけも来年度から世田谷キャンパスが本拠となりますが、今後もますます充実した活動が続けることでしょう。期待しています!



初めてオンラインで読み聞かせの勉強会を行った時のスクリーンショット。